

文化・芸術都市あいち ～ 県所有の歴史的建造物の維持・保存 ～

愛知県庁本庁舎（屋根改修工事）

愛知県庁本庁舎は、昭和13年(1938)に完成した地上6階・地下1階建ての鉄骨鉄筋コンクリート造で、平成26年(2014)に国の重要文化財に指定された。緑青(ろくしょう)の屋根は、戦後に復元され約70年が経過した色合いであった。

経年劣化により、屋根の銅板等の落下が相次いだことから、歴史的建造物の景観と行政庁舎としての機能の両方を維持・保存するために、令和4年(2022)から令和8年(2026)にかけて全面的な屋根改修工事を行った。

赤褐色に戻った屋根は、約30年後には再び緑青を帯びるとされており、これからも時節の変化を刻むことが期待される。



改修前の本庁舎屋根



愛知県庁大津橋分室

大津橋分室は、昭和8年(1933)に愛知信用組合連合会の建物として建設され、昭和32年(1957)に愛知県に寄贈された。

設計は当時、営繕課の建築助手であった黒川 巳喜 氏(愛知県出身の建築家 黒川 紀章 氏の父)らによるもので、ゴシック風の柱、丸窓やバルコニーの装飾などが特徴的な昭和初めのモダンな建物である。内部は天井が高く、床や壁に貼られたタイル、カーブする階段の手すりなど、各所に趣がある。

改修工事を経て、平成27年(2015)からは「愛知・名古屋 戦争に関する資料館」や「アートラボあいち」として、自由に立ち寄れる施設となっている。



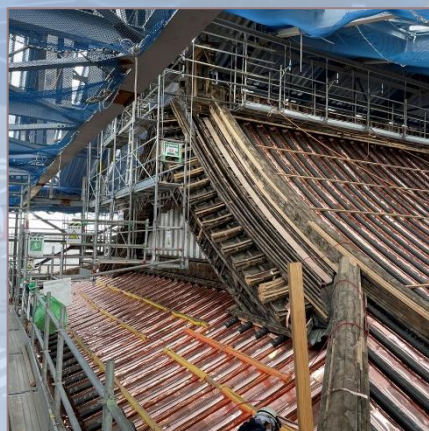
愛知県立瑞陵高等学校 感喜堂

瑞陵高校感喜堂は、この地に所在した旧愛知県商業学校(大正8年(1919)に開校)の講堂として、大正13年(1924)に建てられた。愛知県営繕課(当時)の設計によるもので、鉄筋コンクリート造の平屋建て、屋根は寄棟造の棧瓦葺き、外部に柱を出し、柱基にやや膨らみを持たせ、柱頭には簡略化した繰形を施す意匠が特徴であり、大正時代の県立学校の建築様式として「モダンルネサンス」を表現している。



愛知県立西尾高等学校 武道場

西尾高校武道場は、昭和4年(1929)に建てられたもので、平屋建て、外壁を鉄筋コンクリート造とし、小屋組に木造と鉄棒を組み合わせたクイーンポストトラスを採用している。外観は軒に突き出た肘木の先端を木鼻とし、本瓦葺の屋根を架けるなど和風建築の要素をもちつつ、全体としては洋風建築の雰囲気を感じるものとなっている。



素屋根内での補修

工期中の降雨に対応するため、仮設の素屋根の中で改修工事を実施し、素屋根は免震構造である庁舎と一体で地震時に可動するように柱脚部に「すべり支承」を設けた。補修にあたっては、既存部材を調査し、文化財保護の観点から可能な限り流用している。



耐震改修工事

今後、高い確率で発生が予想される南海トラフ地震など、想定される地震動に対して安全性を確保するため、耐震改修工事を平成21年(2009)までに実施。意匠を保ちつつ、居ながら工事で、建物の不確定要素にも対応できる「免震レトロフィット工法」を採用した。

愛知県公式Webサイトでは、詳しい説明等を掲載していますので、是非ご覧ください。



愛知県公式Webサイト
愛知県庁本庁舎の紹介



愛知県公式Webサイト
屋根改修工事の紹介



愛知県公式Webサイト
文化財室のページ



～企画・制作～

愛知県建設局公共建築部公共建築課
〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話：052-954-6592 FAX：052-971-0469
E-mail：kokyokenchiku@pref.aichi.lg.jp



愛知県公式Webサイト
公共建築課のページ